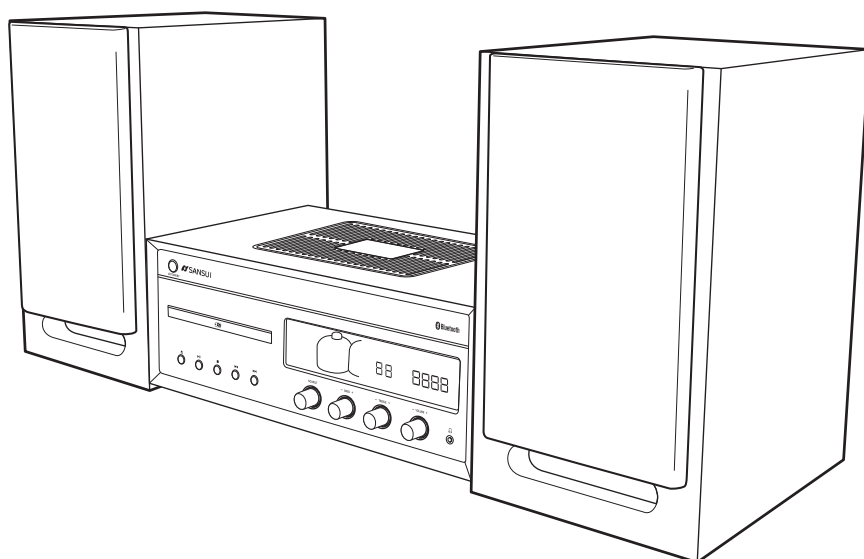


取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保管してください。



もくじ

| | |
|------------------------------|-------|
| 安全上のご注意 | P. 2 |
| ご使用になる前に | P. 4 |
| 各部の名称とはたらき | P. 6 |
| 使用前の準備 | P. 8 |
| 正しい使いかた | P. 11 |
| 通常の操作 | P. 11 |
| CDを聴く | P. 14 |
| USBメモリのMP3/WMAを聴く | P. 19 |
| Bluetooth [®] 機器を聴く | P. 20 |
| FMラジオを聴く | P. 22 |
| 外部入力を聴く | P. 25 |
| 便利な使いかた | P. 28 |
| お手入れのしかた | P. 31 |
| 修理・サービスを依頼する前に | P. 32 |
| 主な仕様 | P. 35 |
| アフターサービスについて | 裏表紙 |
| 保証書 | 裏表紙 |





安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

| | |
|--|--|
|  警告 | 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。 |
|  注意 | 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。) |




図記号の意味と例

| | |
|---|--|
|  | ⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。) |
|  | ●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。) |

警告

| | | | | | |
|---|---|--|---|--|--|
|  禁止 | 交流100V以外では使用しない。 電圧の違うところ、自動車・船舶などの直流電源には接続しないでください。火災・感電の原因になります。 |  禁止 | 雷が鳴り始めたら、電源プラグに触れない。 感電の危険があります。 |  指示 | 乾電池からもれた液が目に入ったときは、こすらずに水で洗い流し、医師の診察を受ける。 失明や目に障害を負う恐れがあります。 |
| | 日本国内以外で使用しない。 本機は日本国内専用です。 | | 本機に対してスプレー式のエアスターを使用しない。 本機の内部にガスがたまると、引火して爆発する原因になります。 | | 取りはずした乾電池の扱いに注意する。 幼児の手の届かないところに保管してください。乾電池を口に入れたり、ショートさせたりすると事故の原因になります。 |
| | 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。 | | 温度の高いところ、水蒸気が多いところ、湿度が高いところ、直射日光が当たるところ、屋外、振動の多いところに設置しない。 火災・感電・故障の原因になります。 |  プラグを抜く | 使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。 |
| | 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。 | | ろうそくなど、炎が出るものを近くに置かない。 炎が近づくと、火災の原因になります。 | | お手入れのときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。 |
| | 電源コードを、乳幼児の手の届くところに置かない。 コードが誤って首に巻きついたりして事故の原因になります。 |  使用禁止 |  分解禁止 | 分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシシャカスタマーセンター(裏表紙参照)にご相談ください。 | |
| | 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。 | | |  ぬれ手禁止 | ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。 |
| | 本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。 |  指示 |  水ぬれ禁止 | | 水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 本機の上に水の入った容器や植木鉢などを置かない。 ショート・感電の原因になります。 |
| | 強い衝撃を与えたり、本体を落下させたりしない。 衝撃を与えたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、点検修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因になります。 | | | 電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。 | 電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合は拭き取る。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。 |

⚠ 注意

| | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|
|  禁止 | 次のようなところでは使わない。 ●ガスコンロなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しぶきがかかる場所 ●ホコリの多いところ 変色・変形・火災・感電の原因になることがあります。 |  禁止 | 上にものをのせたりしない。 内部に入ったとき、感電や火災・故障の原因になります。 |  指示 | リモコンを廃棄するときは、乾電池を抜く。 そのまま廃棄すると、思わぬ事故の原因となります。乾電池は各地方自治体の指示に従って処分してください。 |
| | 熱のこもりやすい狭い場所、自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災や感電の原因になります。 | | 真空管に触れない。 動作中は真空管および真空管カバーが高温になり、やけどの危険があります。 | | 音量に注意する。 使用前には音量を最小にするようにし、使用中も音量を大きくしすぎないように注意してください。長時間、耳を刺激する大きな音量で聴き続けると、聴力に悪い影響を与えます。 |
| | 不安定な場所・傾斜のある場所では使わない。 転倒したり落下して、けが・故障の原因になることがあります。 | | 通風孔をふさがない。 通風孔（放熱のための穴）をふさがないでください。内部に熱がこもり発火やけが、感電の原因になることがあります。 | | 接続に注意する。 本機の入力端子へ接続した機器の過大信号によっては、本機を傷めたりすることがあります。正しい接続をしてください。 |
| | お手入れのときは住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。 | | 乾電池の極性に注意する 乾電池を取り付けるとき、+(プラス)と-(マイナス)に注意し、正しく入れてください。乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になることがあります。 | | 持ち運びするときは、ロッドアンテナをたたむ。 けがや故障の原因となります。 |
| | 指定以外の乾電池を使用しない。 異なる種類の乾電池や新旧の乾電池を混合して使用しない。 乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になることがあります。 | | 電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になることがあります。 | | 本機を設置するときは、壁から20cm以上の間隔をあける。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から15cm以上、背面から10cm以上の間隔をあける。 内部に熱がこもり、火災の原因になります。 |
| 乾電池は直射日光が当たる場所など高温になる場所に置かない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。 | 長時間使用しないときはリモコンの乾電池を抜く。 長時間入れたままにしておくと、液漏れによって内部を汚したり、破裂による火災やけがの原因になります。 | | | | |

ご使用になる前に

使用環境について

結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、内部に水滴がついたりする結露現象が起こります。

この状態でご使用になると、正しい動作をしないことがあります。このようなときは、電源を入れて、1時間程度放置してください。

内部の熱で結露が取り除かれ、正常に動作するようになります。

USBメモリー CD MP3 WMAについて

- USBメモリー**
- ・ファイルシステム FAT32
 - ・USB2.0対応
 - ・～32GBまで対応

本機は、USBマストレージクラスデバイスにのみ対応しています。お使いのUSB機器がUSBマストレージクラスであるかは、直接USB機器の発売元にお問い合わせください。

- ※本説明書では接続できるUSB機器を「USBメモリー」と記載しています。
- ・USBハブを介してUSB機器を使うことはできません。
 - ・本機では、USBメモリー内のファイルを削除したり、移動することはできません。
 - ・本機はUSBメモリーに記録されたMP3/WMAファイルを再生することができます。
 - ・DRM(著作権保護されたファイル)には対応していません。
 - ・USBメモリーの状態によっては正常に動作しないことがあります。

CD

- ・レッドブック：Audio CDフォーマット
- ・ISO9660 準拠
- ・CD-R/CD-RWに対応

本機は、CD-ROM、CD-RまたはCD-RWに記録されたMP3/WMAファイルを再生することができます。パソコンなどを使ってMP3/WMAのディスクを作成する際は、使用するソフトの説明をよくお読みください。

「CDIについて」(→5ページ)もお読みください。

- ・マルチセッションには対応していません。最初のセッションのみ再生します。

MP3

- ・正式名称をMPEG-1 Audio Layer-3という音声圧縮の規格。
- ・MP3データの認識はファイル拡張子「.mp3」で行ないます。ファイル名には必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」を付けていてもMP3データ形式でないファイルは再生できません。

WMA

- ・正式名称をWindows Media Audioという音声圧縮の規格。
- ・WMAデータの認識はファイル拡張子「.wma」で行ないます。ファイル名には必ず拡張子「.wma」を付けてください。拡張子「.wma」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.wma」を付けていてもWMAデータ形式でないファイルは再生できません。
- ・著作権保護されたWMAファイルは再生できません。

MP3/WMA

再生可能ファイル共通事項

- ・ビットレート 96 ~ 320kbps (推奨)
- ・サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz
- ・999以上のファイルまたは99以上のフォルダーが記録されたディスクまたはUSBメモリーは、正常に再生できないことがあります。
- 本機は、ビットレート32kbps～320kbpsのMP3/WMAファイルを再生できます。
- ・可変ビットレートで記録されたファイルは、正常に再生できないことがあります。
- ・MP3/WMAデータの状態によっては、本機では再生できなかつたり、特殊再生が正しく動作しなかつたり、音が途切れることがあります。

MP3/WMA

ファイルの再生順番について

- ・複数のフォルダーにMP3/WMAファイルを書き込むと、フォルダーごとにフォルダー番号を付けます。フォルダー番号の若い順に再生します。
- ・書き込まれるフォルダーとファイルの順番情報は、書き込みソフトによって異なることがあります。予想した再生順番と異なる順でファイルが再生されることがあります。

Bluetooth について

Bluetooth(ブルートゥース)

本機はBluetoothの無線技術・ワイヤレスシステムを搭載しています。対応するプレーヤー、携帯電話などの音楽をワイヤレスで聴くことができます。

電波に関する注意事項

本機の使用周波数帯では、産業・科学・医療用機器などのほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)などが運用されています。

- ・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万が一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止してください。

通信について

- ・Bluetooth対応のマウスなどのパソコン関連機器と、ヘッドホンなど音楽機器を同時に使用すると、音が途切れたりすることがあります。
- ・本機などのBluetooth機器は無線LAN機器(IEEE802.11b/g/n)と同じ周波数帯(2.4GHz)を使用するため、近くで使用すると電波障害を互いに発生させて、通信速度低下や接続不能になることがあります。このような場合は、使用周波数を変更するか、できるだけ離して(10m程度)使用します。
- ・本機はすべてのBluetooth機器と接続を保証するものではありません。また接続するまで時間がかかるものがあります。
- ・Bluetooth機器どうしの接続で、対応する規格、周波数帯域、プロファイルの種類などによって接続できないことがあります。

安全にご使用いただくために

Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などに影響を与えることがあります。場合によっては事故をひきおこすこともありますので、以下のようなところでは持ち込まない、または電源を入れないようにしてください。

- ・病院など医療機関、電車・航空機
- ・自動ドアや火災報知機の周辺
- ・心臓ペースメーカー、医療用電子機器の近く

Bluetooth機能を搭載したセットを改造して使用したときは電波法に抵触します

本機は電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等を受けており、その証として「技術マーク」が本機の裏面に表示されています。改造すると、技術基準適合証明が無効となります。無効状態で使用すると、電波法に抵触しますので絶対に改造しないようにお願いします。

Bluetooth機能は日本国内で使用してください

本機のBluetooth機能は、日本国内での無線規格に準拠し認証を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。

BluetoothおよびBluetoothロゴは米国 Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。そのほか商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。

Bluetooth部 仕様

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 適合規格 | Bluetooth Ver.2.1+ EDR |
| 通信出力 | Class2 |
| 使用周波数帯域 | 2.4GHz 帯 (2.402 ~ 2.480GHz) |
| 変調方式 | G FSK. |
| プロファイル | A2DP, AVRCP |
| 対応コーデック | SBC |
| 通信距離* | (見通し) 約 10 m* |
| 同時接続台数 | 1 台 |
| 記憶可能ペアリング台数 | 1 台 |

* 通信距離は目安です。周囲の環境により距離が変わることがあります。

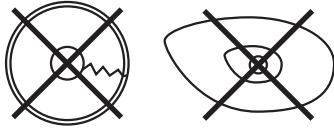
お使いのBluetooth機器によっては接続できないことがあります。詳しくはお使いのBluetooth機器の説明書をご確認ください。

CD について

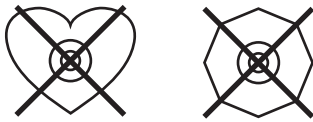
ディスク使用上の注意



ディスクに左のマークが入ったものをご使用ください。
コピーコントロールCD(CCCD)やDual Discなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクは正しく再生できないことがあります。

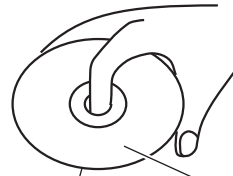


ひびやそりのあるディスクは絶対に使わない。
再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや割れや変形したディスク、またはテープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使用しないでください。



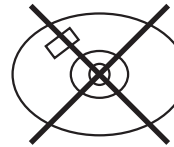
ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは使用しない。
機器の故障の原因となります。

ディスク取り扱い上の注意



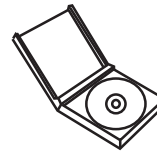
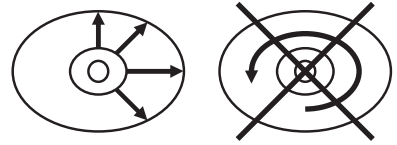
再生面を触れないように持つ。

再生面 ラベル面



再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らない。

ディスクに指紋や汚れが付いたときは、柔らかい布などで、放射状に軽く拭き取る。



長い時間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管する。

※クラス1レーザ製品です。

乾電池について

乾電池を扱うときには

- 指定以外の乾電池は使用しない。
- 極性表示(+ -)を間違えないで挿入する。
- 水や火の中に入れてたり、充電・加熱・分解・ショートしない。
- 液漏れがおきたら使用しない。
乾電池はもちろん、本体も液が付いた状態で使用すると危険なため、直接触れずに拭き取るようにしてください。
万が一、液が体に付いてしまった場合は、水で十分に洗い流すようにしてください。
- 長時間使用しないときは、乾電池をはずしておく。
- 使用後は、必ず各自治体の指示に従って処分する。

真空管について

- 本機は真空管を使用しているため、電源投入後すぐに使用開始できません。
真空管を使用しているため、使いかたによっては(長時間使用継続や大音量使用など)真空管を傷めてしまい、機器としての寿命を縮めることになります。
- 煩雑な電源の入切、電源コードの抜き差しをしない。
- 改造などで真空管を交換しないでください。
改造をすると、保証サービスを受けられないだけでなく、とても危険であるため、絶対しないでください。

FM補完放送について

FM補完放送(ワイ・AM放送の放送区域において難聴・災害対策のため、FM放送の周波数(従来の76.1

~89.9MHz、新たに設定された90.0~94.9MHz)を用いて、AM放送の補完的な放送をしています。

本機はFM補完放送に対応しています。

※FM補完放送を実施している放送局、周波数、聴取エリアなどは地域によって異なります。詳しくは各地域の放送局ホームページなどを確認してください。

免責事項について

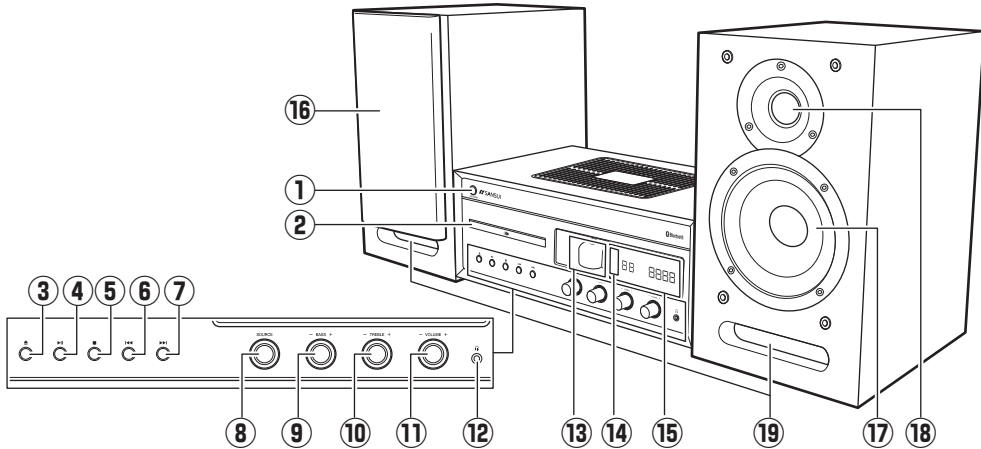
お客様、または第三者が、この製品の誤った取扱・故障・その他の不都合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品の故障・誤動作または不都合によるディスク等への記録された内容の損害及びお客様または第三者が製品利用の機会をのがしたために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

各部の名称とはたらき

本体

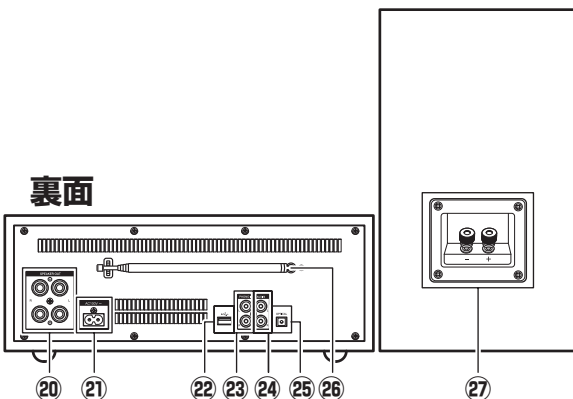
前面



| 名称 | 機能 |
|------------------|---|
| 前面 | |
| ① 〇STANDBY/電源ランプ | 電源を入/スタンバイします 電源ランプは、エコパワー・スタンバイ状態のときに赤く点灯します |
| ② CDトレイ | CDを載せます |
| ③ CDトレイ開閉ボタン | CDトレイを開閉します |
| ④ 再生/一時停止ボタン | 再生または一時停止します |
| ⑤ 停止ボタン | 再生を停止します |
| ⑥ スキップ-/早戻しボタン | 前の曲に移動します 再生中は曲の始めに戻ります 再生時に長押しすると早戻しします。ラジオ使用時には選局ボタンとして使用します |
| ⑦ スキップ+/早送りボタン | 次の曲に移動します 最後の曲のときは最初の曲にスキップします 再生時に長押しすると早送りします ラジオ使用時には選局ボタンとして使用します |

| 名称 | 機能 |
|-------------------|--|
| ⑧ SOURCEつまみ(入力切替) | 回転させて入力切り替えをします DISC ⇄ USB ⇄ TUNER ⇄ AUX ⇄ PHONO ⇄ BT ⇄ OPTICAL ⇄ DISC |
| ⑨ BASSつまみ | 低音を調節できます |
| ⑩ TREBLEつまみ | 高音を調節できます |
| ⑪ VOLUMEつまみ(音量) | 音量を調節します |
| ⑫ ヘッドホン端子 | ヘッドホンを接続して音楽を聴くことができます |
| ⑬ 真空管 | 通電時、光を放ちます |
| ⑭ リモコン受光部 | リモコンからの信号を受信します |
| ⑮ ディスプレイ部 | 各種再生情報などを表示します |
| ⑯ サランネット | スピーカーカードрайバーを保護します |
| ⑰ ウーファー | 低音～中音を再生します |
| ⑱ ツイーター | 高音を再生します |
| ⑲ バスレフポート | 低音域を豊かにします |

スピーカー裏面

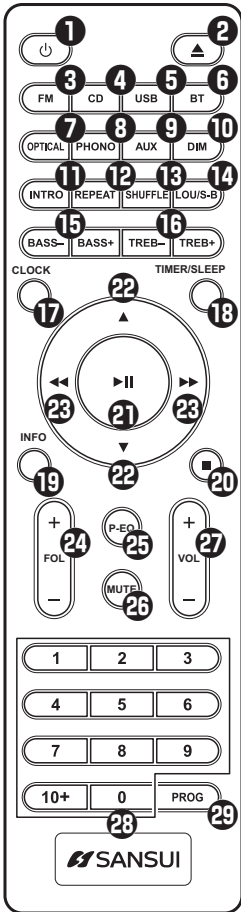


| 裏面 | |
|--------------------|--------------------------------------|
| ⑳ スピーカー出力端子 | 付属のスピーカーケーブルを使用してスピーカーを接続します |
| ㉑ 電源端子 | 付属の電源コードを接続します |
| ㉒ USB端子 | USBメモリーを取り付けます |
| ㉓ PHONO入力端子 | レコードプレーヤーを接続します(RCA端子) |
| ㉔ A U X外部入力端子 | アナログ2チャンネルの音声信号を入力します(RCA端子) |
| ㉕ OPTICAL光デジタル入力端子 | 光デジタルケーブルを使用してデジタル音声を入力します(S/PDIF端子) |
| ㉖ FMロッドアンテナ | FMラジオを受信するときに使用します |

スピーカー裏面

| | |
|-------------|------------------------|
| ㉗ スピーカー入力端子 | 付属のスピーカーケーブルを使用して接続します |
|-------------|------------------------|

リモコン



| | 名称 | 機能 |
|-------------|----------------|---|
| リモコン | | |
| 1 | 電源ボタン | 電源を入/スタンバイします |
| 2 | CDトレイ開閉ボタン | CDトレイを開閉します |
| 3 | FMボタン | FMモード (TUNER) に切り替えます |
| 4 | CDボタン | CDモード (DISC) に切り替えます |
| 5 | USBボタン | USBモードに切り替えます |
| 6 | BTボタン | Bluetoothモード (BT) に切り替えます |
| 7 | OPTICALボタン | 光デジタル入力モード (OPTICAL) に切り替えます |
| 8 | PHONOボタン | フォノモード (PHONO) に切り替えます |
| 9 | AUXボタン | AUX外部入力モードに切り替えます |
| 10 | DIMボタン | ディスプレイの明るさを変更できます |
| 11 | INTROボタン | CD/MP3/WMAの楽曲のイントロ再生ができます |
| 12 | REPEATボタン | リピート再生モードの選択をします |
| 13 | SHUFFLEボタン | CD/MP3/WMAの楽曲をシャッフル再生します |
| 14 | LOU/S-Bボタン | ラウドネスモードとS-BASSモードの切り替えをします |
| 15 | BASS- BASS+ボタン | 低音を調節します |
| 16 | TREB- TREB+ボタン | 高音を調節します |
| 17 | CLOCKボタン | 現在時刻の設定や時刻の表示をします |
| 18 | TIMER/SLEEPボタン | オンタイマー設定、スリープタイマー設定をします |
| 19 | INFOボタン | CD再生時、MP3/WMA再生時に情報の表示を切り替えます |
| 20 | 停止ボタン | 曲を停止します |
| 21 | 再生/一時停止ボタン | 曲の再生/一時停止をします |
| 22 | スキップ+/-ボタン | 1曲先に進めます/1曲前に戻します プリセットされたラジオ局を選局します 時刻設定/タイマー設定時に使用します |
| 23 | 早戻し/早送りボタン | 曲を早送り/早戻しします ラジオの選局に使用します |
| 24 | FOL +/-ボタン | MP3/WMAのフォルダーを切り替えます |
| 25 | P-EQボタン | 音質の変更をします 押すたびにPOP-JAZZ-CLASSIC-ROCK-FLAT-POPと切り替わります |
| 26 | MUTEボタン | 消音します もう一度押すと元に戻ります |
| 27 | 音量 +/-ボタン | 音量を設定します |
| 28 | 数字ボタン | 曲のダイレクト選曲やラジオのプリセット局のダイレクト選局に使用します |
| 29 | PROGボタン | CD/MP3/WMAのプログラム再生時に使用します ラジオの放送局プリセットに使用します |

使用前の準備

梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

| | | | |
|------------------------|-----|-------------------|-----|
| 本体..... | 1 個 | スピーカーケーブル..... | 2 本 |
| スピーカー（サラネット装着済）..... | 2 個 | 電源コード..... | 1 本 |
| リモコン..... | 1 個 | 取扱説明書（保証書含む）..... | 1 冊 |
| 単4形乾電池（リモコン動作確認用）..... | 2 本 | | |

スピーカーと電源コードの取り付け

1. 付属のスピーカーケーブルを本体裏面のスピーカー出力端子に接続する

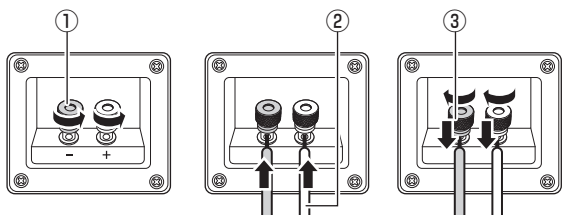
赤色を+、黒色を-にして右・左とも接続してください。

スピーカー端子を左に回してゆるめ、スピーカーケーブルの芯線部分（銅線）をスピーカー端子の根本部分の開いた穴に通します。スピーカー端子を右に回して締め、ケーブルの芯線部分がはさまれる（固定される）のを確認してください。

※ケーブルの芯線部分（銅線）が内部の金属部分に触れず、皮膜部分で固定されると、音声信号が流れず、音が鳴りません。

2. スピーカー裏面のスピーカー入力端子にスピーカーケーブルを接続する

本体裏面のスピーカー出力端子と同じチャンネル（右・左）であることを確認して接続してください。



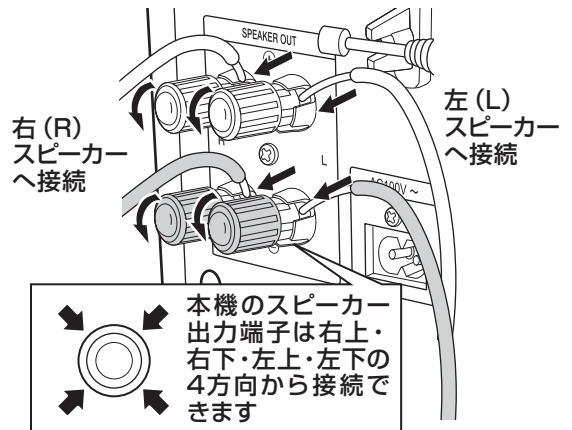
スピーカー裏面にあるスピーカー入力端子のねじをゆるめて①、スピーカーケーブルの芯線部分（銅線）を穴に通します②。そのまま押さえつけるようにスピーカー入力端子のねじを締めてください③。

※軽く引っ張ってみて、はずれないことを確認してください。

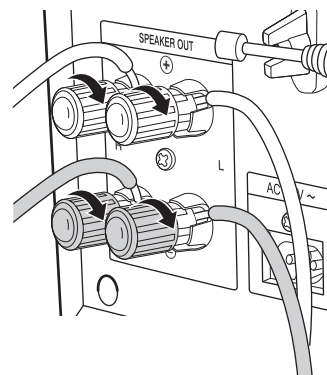
※ケーブルの芯線部分（銅線）が内部の金属部分に触れず、皮膜部分で固定されると、音声信号が流れず、音が鳴りません。

※内径 4mm のバナナプラグと対応しています。使用する場合は本体裏面のスピーカー出力端子の赤、黒のキャップを精密マイナーストライパーなどで取りはずしてください。

スピーカー端子をゆるめてスピーカーケーブルを接続する

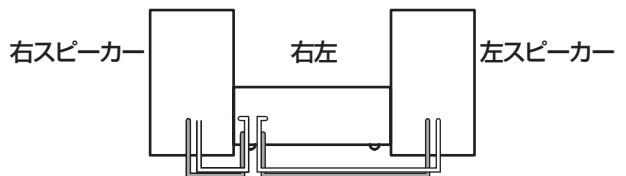


スピーカー端子を締めてスピーカーケーブルを固定する



付属のスピーカーケーブルの極性について
付属のスピーカーケーブルは赤みかかった（銅色）線を+（赤色の端子）、透明に近い白色（銀色）の線を-（黒色の端子）に接続してください。

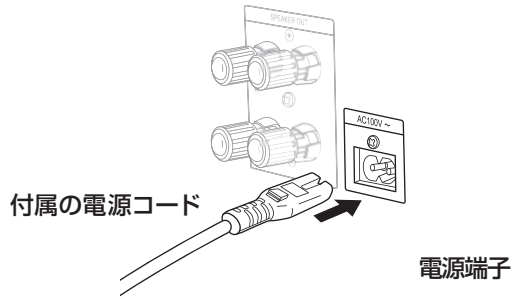
《裏面から見た接続図》



スピーカーケーブルの接続を間違えると故障の原因になります。

3. 本体の電源端子に付属の電源コードを取り付けて電源プラグをコンセントに差し込む

通電すると、本体のディスプレイ部に「---:---」が点滅表示されます。



⚠注意


- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く。火災、事故などの原因になります。
- めれた手で電源プラグを扱わない。感電、火災、故障の原因になります。

リモコンの準備

※ 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。

※ ボタンを押しても動作しない、動作が不安定なときには、新しい電池（単4形乾電池）を用意して、以下の方法で電池を交換してください。

リモコンへの電池の入れかた

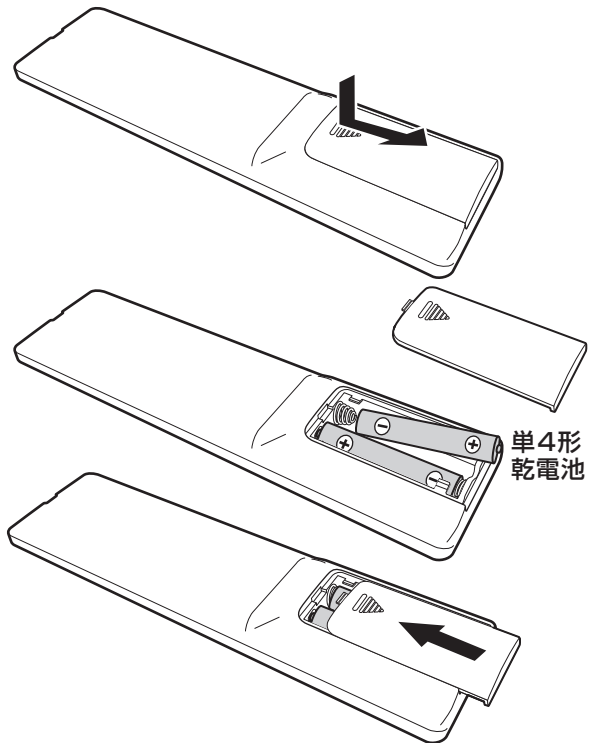
1. リモコン裏面の  マーク部分を押しながらスライドさせて裏フタをはずす
2. 電池の極性（ \oplus \ominus ）に注意して、電池を取り付ける
3. 裏フタを取り付ける

カチッと音がするまでスライドさせてください。

⚠注意

- 長時間リモコンを使用しないときは、電池を取りはずす。
- 電池の破裂や液もれを防ぐため、 \oplus \ominus を正しく入れる。
- 電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などはしない。
- 万一、液もれが起こったときは、よく拭き取ってから新しい電池を入れる。

《電池を交換するとき・取り出すとき》



リモコン使用可能範囲

リモコンの操作は、リモコン受光部の正面から約6メートル、左右30度、上下20度の範囲でお使いください。

※ 次のようなとき、正しくリモコンが動作しないことがあります。

- リモコンと本機間に障害物があるとき
- 直射日光や蛍光灯の強い光が受光部に当たっているとき
- 赤外線を出す機器の近くで使用したとき

使用前の準備（つづき）

現在時刻を設定する

電源プラグをコンセントに接続すると、ディスプレイ部に「--:--」が点滅表示されます。

以下の手順で時計を合わせてください。

- ・時刻を設定するとオンタイマー機能が使用できます（⇒29ページ）。

1. スタンバイ状態でリモコンの CLOCK ボタンを長押しする



ディスプレイ部に「CLK SET」と表示されます。

2. リモコンの スキップ+/- ボタンで12時間（AM/PM）表示または24時間表示を選び、 CLOCK ボタンを押す

12時間（AM/PM）表示 「12-H」

24時間表示 「24-H」

3. リモコンの スキップ+/- ボタンで「時」「分」を設定して CLOCK ボタンを押す

- ・「時」を設定後、  CLOCK ボタンを押すと「分」を設定することができます。
- ・「分」を設定後、  CLOCK ボタンを押すと設定時刻が確定し時計機能が開始します。

※ 設定をやめるときは  停止ボタンを押します。

※ 10秒以上無操作状態がつづくとき時刻の設定がキャンセルされます。

オートパワーオフ


本機は以下の状態で15分以上操作しないと自動的に電源をスタンバイ状態に切り替えます

- ・オートパワーオフ機能はCDモード/USBモード/AUXモード/PHONOモード/OPTICALモードで再生を停止したとき、または再生を一時停止しているとき、Bluetoothモードで未接続時に動作します

※ FMモード、BluetoothモードでBluetooth接続時については対応していません。

※ AUX外部入力端子やPHONO入力端子、OPTICAL光デジタル入力端子に音量調節機能のある機器を接続する場合は音量を半分以上に上げてください。小音量の場合、オートパワーオフが正しく動作しません。

現在時刻を確認する

エコパワースタンバイ状態ではディスプレイ部には何も表示されていませんが、リモコンの  CLOCK ボタンを押すことで現在時刻を見ることができます。またエコパワースタンバイ状態が解除できます。


1. スタンバイ状態でリモコンの CLOCK ボタンを押す


ディスプレイ部に現在時刻が表示されます。

ディスプレイ部の明るさを調節する

ディスプレイ表示を、お好みの明るさに変えることができます。

1. リモコンの DIM ボタンを押す

 DIM ボタンを押すたびにディスプレイ部の表示の明るさが変化します。3段階で明るさを調節できます。

| | |
|--|--|
|  注意 | 電源プラグをコンセントから抜くと、時間がリセットされます。再度設定が必要になります。 |
|--|--|

ふたつのスタンバイ状態

本機にはふたつのスタンバイ状態があります。

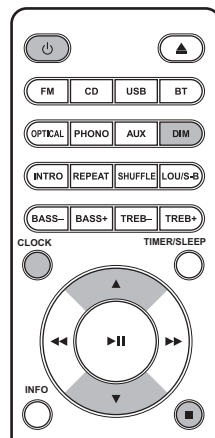
1. スタンバイ状態で本体またはリモコンの 電源ボタンを長押しすると、スタンバイ状態が切り替わる

・通常のスタンバイ状態

終了時に「GOOD BYE」と表示されます。スタンバイ状態では常に時計を表示します。赤い電源ランプは消灯しています。

・エコパワースタンバイ状態

終了時に「ECO PWR」と表示されます。スタンバイ状態では赤い電源ランプのみ点灯します。現在時刻は表示されません。



正しい使いかた

通常の操作

1. 本体またはリモコンの(電源)電源ボタンを押して電源を入れ、真空管の準備ができるまで約25秒待つ

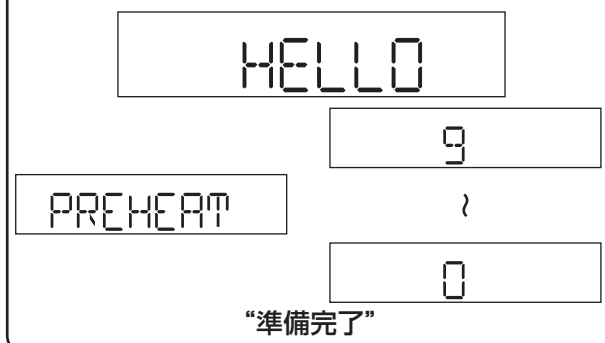
電源が入ると、真空管には赤い光がとまり、ディスプレイ部ではカウントダウンが始まります。カウントダウンが0になると、準備が完了し、まもなく操作ができるようになります。

2. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの(+VOL-)音量+/-ボタンで音量を調節する

入力モードによって自動的に再生が開始されるため、音量を調節します。

- 音量が5以下で電源を入切すると、音量5に戻り、音量が12以上で電源を入切すると、音量12に戻ります。
- 音量は0 (MIN) から32 (MAX) の範囲で調節できます。

カウントダウン表示



注意 電源投入直後、本機では既に音量が設定されているので、十分注意する。

3. 消音するときはリモコンの(MUTE)MUTEボタンを押す

リモコンの(MUTE)MUTEボタンを押すと音量0になります。もう一度押すと元の音量に戻ります。

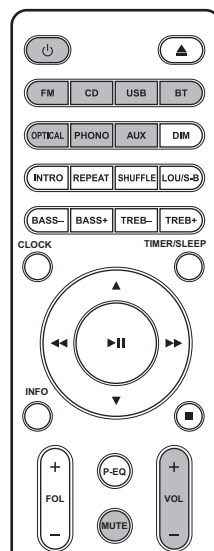
- 消音中はディスプレイ部に「MUTE」が点滅表示されます。
- 消音中に本体のVOLUMEつまみを回したり、リモコンの(+VOL-)音量+/-ボタンを押すと、消音は解除されます。

4. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの各入力ボタン (FM、CD、USB、BT、OPTICAL、PHONO、AUX) でモードを切り替える

- 本体のSOURCEつまみを回すと、DISC(CD) ⇄ USB ⇄ TUNER(FM) ⇄ AUX ⇄ PHONO ⇄ BT ⇄ OPTICAL ⇄ DISC(CD)... とモードが切り替わります。
- 接続している機器によって、モードの切り替えに、(音を出すまでに)時間がかかることがあります(USBモードなど)。



MUTE



正しい使いかた(つづき)

通常の操作(つづき)

5. 本体・リモコンの各音質調節ボタンで好みの音質に調節する

ⓅP-EQボタン ⓁOU/S-Bボタンで音質を変化させているときは、DSCランプが点灯します。

リモコンのⓅP-EQボタンで好みの音質に切り替える

お好みの音質でお楽しみいただける、5パターンのイコライザー機能が内蔵されています。

- リモコンのⓅP-EQボタンを押すたびに、ポップス(POP)→ ジャズ(JAZZ)→ クラシック(CLASSIC)→ ロック(ROCK)→ フラット(FLAT)→ ポップス(POP)と音質が切り替わります。
- リモコンのみで操作できます。

リモコンのⓁOU/S-Bボタンでお好みの音質に切り替える

リモコンのⓁOU/S-Bボタンを押すたびに、ラウドネス(LOUD ON)→ S-BASS(BASS ON)→ フラット(FLAT)と音質が切り替わります。

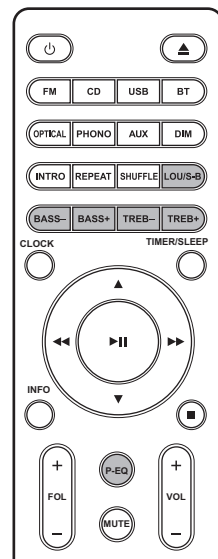
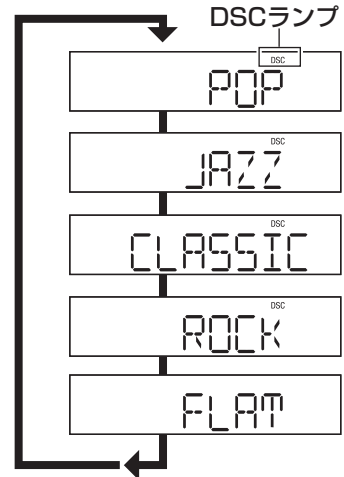
- ラウドネスモード：小音量時に低音域と高音域を増幅します。
- S-BASSモード：低音域を増幅します。
- リモコンのみで操作できます。

本体のⓇBASSつまみ、ⓇTREBLEつまみ、リモコンのⓇBASS- ⓇBASS+ ⓇTREBLE- ⓇTREBLE+ボタンで低音(BASS)と高音(TREBLE)の音質調節をする

低音:本体のⓇBASSつまみ、リモコンのⓇBASS- BASS+ボタンで低音を+5~-5の範囲で調節できます。

高音:本体のⓇTREBLEつまみ、リモコンのⓇTREBLE- TREB+ボタンで高音を+5~-5の範囲で調節できます。

※イコライザー機能(P-EQ)とBASS、TREBLE、ラウドネス、S-BASS機能は併用できません。




6. 聴き終わったら、本体またはリモコンの(電源)電源ボタンを押してスタンバイ状態にする

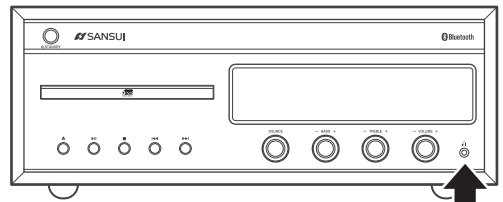
- スタンバイ状態では Bluetooth の接続は切断されます。

7. 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントに接続したままにすると、実際使用しなくても、少なからず電力は消費されます。

- CD、USB メモリーなど装着したままにしないでください。

| | |
|--|--|
|  警告 | 使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 火災・故障の原因になります。 |
|--|--|




ヘッドホン端子


ヘッドホンを使う

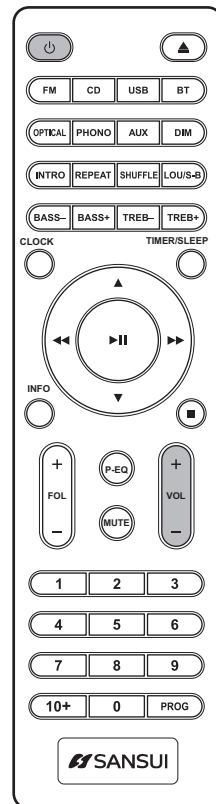
1. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの(+VOL-)音量+/-ボタンで音量を最小にする

2. 本体前面のヘッドホン端子にヘッドホンを接続する

- ヘッドホン端子に接続するとスピーカーから音が出なくなります。
接続したヘッドホンを取りはずすと音が出るようになります。

3. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの(+VOL-)音量+/-ボタンで適切な音量に調節する

| | |
|--|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none">• ヘッドホンを使って大音量で長時間聴くことはしない。 聴力に悪影響をおよぼすことがあります。• 3極 3.5mm ステレオミニプラグのヘッドホンを使用する。 4極以上のミニプラグは正しく使用できないことがあります。 |
|--|---|




正しい使いかた(つづき)

CD を聴く

通常再生をする

1. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの  CDボタンでCDモードに切り替える

ディスプレイ部に「DISC」が表示されます。CDが挿入されていないと、「NO DISC」表示が出ます。

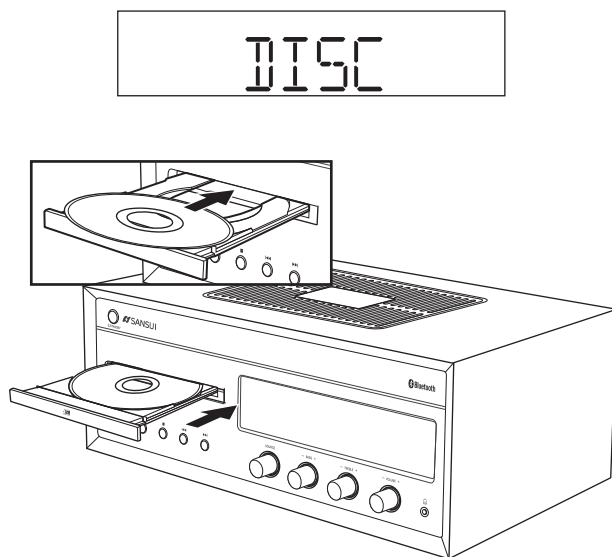
2. 本体またはリモコンの  CDトレイ開閉ボタンを押してCDトレイを開け、CDを載せる

CDトレイを開くと、「OPEN」表示が出ます。ラベル面を上にしてトレイに載せてください。

- CDトレイまたはCDの損傷や故障を避けるために、必ずCDトレイの中央に正しく載せてください。


8cm CDの場合はトレイ内側の凹みに合わせて載せてください。

※「CDについて」(→5ページ)もご覧ください。



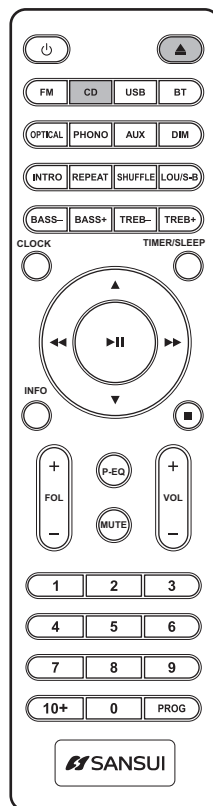
⚠注意

- CDトレイに指やものなどをはさまないように注意する。
- CDトレイの開閉は、必ず本体またはリモコンのCDトレイ開閉ボタンで行なう。
破損の原因となります。
- 音楽CD、MP3/WMA CD以外入れない。
データCDやDVDなどを入れると、異音が発生することがあり、スピーカーや耳を痛め、故障の原因になります。

3. 本体またはリモコンの  CDトレイ開閉ボタンを押してCDトレイを閉める

CDトレイを閉めると「READING」表示が出て、CDの読み込みを始めます。

- 読み込みできないCDと判断されると、「UNK DISC」と表示されます。




4. 自動で再生が開始されるため、再生する曲を操作する

曲番号 1 から再生が開始されます。


- ディスプレイ部に曲番号と経過時間が表示されます。

※ 本機はレジューム機能を搭載しています。再生中に電源を切ったり、モードを切り替えたりしても再生を停止させた曲から再生されます（ただしCDによってはレジューム機能が働かないものもあります）。



曲を進める スキップ+ボタン

- 再生中に  スキップ+ボタンを 1 回押しごとに次の曲に進みます。
- 最後の曲の次は、最初の曲に戻ります。


曲を早送りする 早送りボタン

- 再生中に  早送りボタンを長押しすると聴いている曲が早送りされます。
- ボタンを離すと通常再生に戻ります。


曲を戻す スキップ-ボタン

- 再生中に  スキップ-ボタンを 1 回押しと曲の最初に戻ります（再生開始直後は除く）。
-  スキップ-ボタンを 1 回押しごとに 1 曲戻ります。



曲を早戻しする 早戻しボタン

- 再生中に  早戻しボタンを長押しすると聴いている曲が早戻しされます。
- ボタンを離すと通常再生に戻ります。



曲を選択する 数字ボタン

- 再生中に  数字ボタンを押すと直接曲を選択することができます。


一時停止する 再生 / 一時停止ボタン

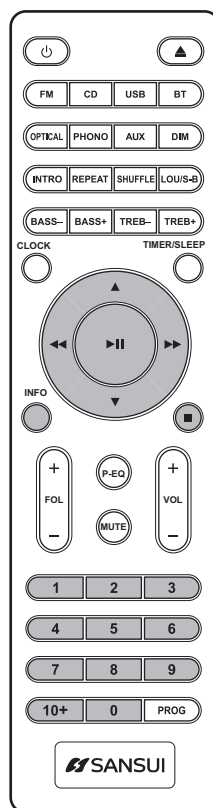
- 再生中に  再生 / 一時停止ボタンを押すと再生が一時停止します。
- もう一度  再生 / 一時停止ボタンを押すと再生が再開します。

停止する 停止ボタン

- 再生中に  停止ボタンを押すと再生が停止します。停止したあとに  再生 / 一時停止ボタンを押すと最初の曲から再生が始まります。

表示を切り替える INFOボタン

-  INFOボタンを押すたびにディスプレイ部の時間表示が、現在再生されている曲の経過時間 → 曲の残り時間 → CDの経過時間 → CDの残り時間 → 曲の経過時間と切り替わります。



正しい使いかた (つづき)

CD を聴く (つづき)

特殊再生をする

特殊再生は、CD、CDまたはUSBに記録されたMP3/WMAファイルで使用できます。

■シャッフルモード

再生中または停止中に、リモコンの[SHUFFLE] SHUFFLEボタンを押すと、ディスプレイ部に「[SHUF]」が点灯し、収録されている曲をランダムに再生します。再度[SHUFFLE] SHUFFLEボタンを押すと、「[SHUF]」が消灯し、シャッフルモードを終了します。

- MP3/WMA 再生時に使用すると、フォルダーに関係なくランダムに再生します。

■イントロモード

再生中または停止中に、リモコンの[INTRO] INTROボタンを押すと、ディスプレイ部に「[INTRO]」が点灯して収録されている曲のイントロ部分(曲の最初の10秒間)のみ順に再生します。

- 最初の曲からイントロ再生が始まります。
- MP3/WMA のCD のときは最初のフォルダー・最初の曲からイントロ再生が始まります。

■繰り返し再生 (リピート再生)

1. 再生中に、リモコンの[REPEAT] REPEATボタンを押してリピート再生モードを選択する

[REPEAT] REPEATボタンを押すたびにリピート再生モードが切り替わります。

■1曲リピート

ディスプレイ部に設定時「REP ONE」、リピート再生中は「REP」点滅状態が続く

■フォルダーリピート

ディスプレイ部に設定時「REP FOLD」、リピート再生中は「REP」点灯状態が続く
※ MP3/WMA ファイルでのみ設定できます。

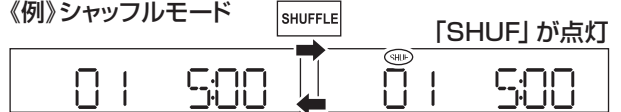
■全曲リピート

ディスプレイ部に設定時「REP ALL」、リピート再生中は「REP ALL」点灯状態が続く

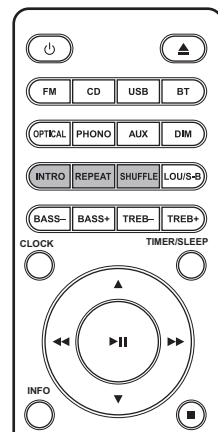
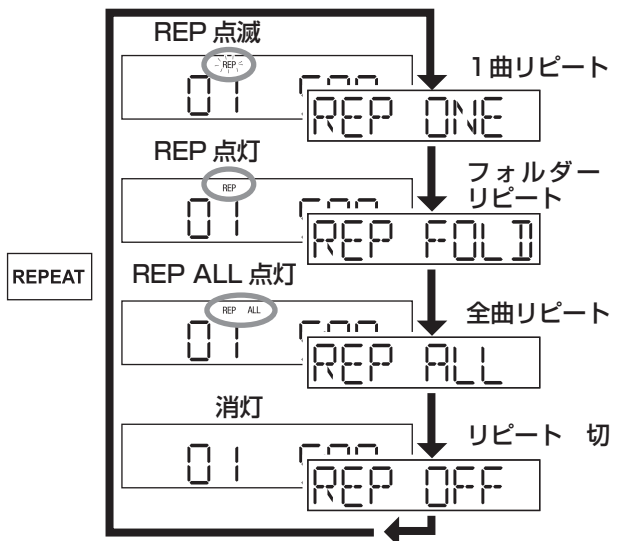
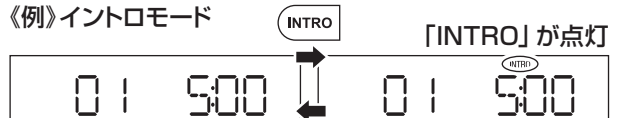
2. リピート再生をやめるには [REPEAT] REPEATボタンを何度か押して「[REP]」表示を消灯させる

ディスプレイ部に「REP OFF」と表示され、「[REP]」が消灯します。

《例》シャッフルモード



《例》イントロモード



PROGRAM(プログラム)再生機能・曲の順番を決めて聴く

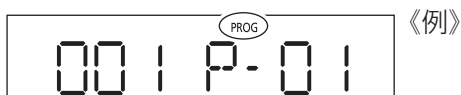
CD、CDまたはUSBに記録されたMP3/WMAファイルを、お好みの順番で再生させることができます。

1. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの CDボタンでCDモードに切り替える

USBでもプログラム機能を使うことができます。

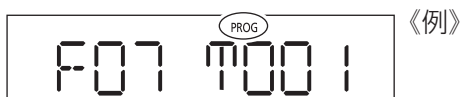
- CDとUSBの曲を混在させることはできません。

2. 自動で再生が開始されるため、 停止ボタンで再生を停止させ、 PROGボタンを押す



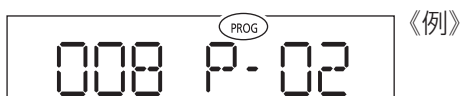
- 再生中に  PROG ボタンを押すと、「STOP FIR」と表示されます。

3. MP3/WMAファイルのときは FOL+/-ボタンでフォルダーを選択する




4. リモコンの スキップ+/-ボタンまたは 数字ボタンで再生する曲を選び、 PROGボタンを押す

1曲目として登録されます。




5. 順に選曲して PROGボタンを押すことを繰り返す

 PROG ボタンを押すことで曲が登録されます。


- 最大20曲まで登録することができます。20曲目を登録すると、「PRG FULL」表示が出て、そのままプログラム再生が始まります。
- 途中の曲の変更などすることができません。

6. 再生/一時停止ボタンを押す


プログラム再生が始まります。プログラム再生中は通常の曲のように早送り、早戻し、次の曲、前の曲、一時停止と自由に操作することができます。

- プログラム再生が終了すると停止状態になります。再度プログラム再生するには、停止状態で  再生/一時停止ボタンを押してください。

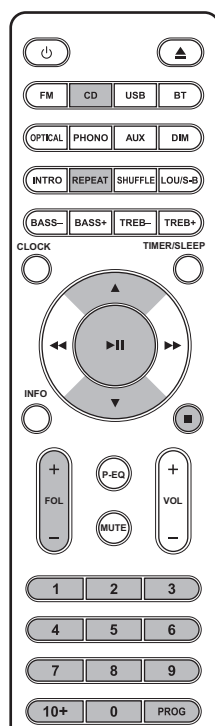
7. リモコンの REPEATボタンを押してプログラムの再生モードを選択する

 REPEATボタンで作成したプログラムを繰り返し再生「REP ALL」、もしくは1曲のみ繰り返し再生「REP (点滅)」させることができます。

プログラムの消去

停止中に再度  停止ボタンを押すと、「PRG CLR」と表示され、プログラムが消去されます。

- ※ CD (USB) モードから他のモードへの切り替え、電源ボタンを押す、ディスクの取り出しなどの操作、USBメモリーの取りはずしをしてもプログラムは消去されます。



正しい使いかた (つづき)

CD を聴く (つづき)


CD の MP3/WMA ファイルを聴く

本機では、CD(CD-R、CD-RW)に記録されたMP3/WMAファイルを再生することができます。

音楽CDの再生方法と同じ操作をします。

1. 音楽CDの再生と同様に、本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの \square CDボタンでCDモードに切り替え、CDトレイを開けてCDをトレイに載せる
2. 自動で再生が開始されるため、再生する曲を操作する

ディスプレイ部には曲番号と経過時間が表示され、曲が切り替わるときにこれから再生する曲のフォルダー番号と曲番号が表示されます。

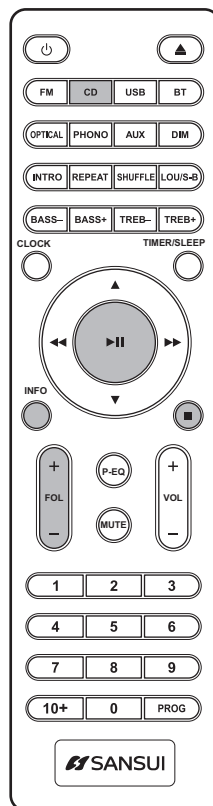
 《例》

 《例》

- リモコンの $\left(\begin{smallmatrix} + \\ \text{FOL} \end{smallmatrix}\right)$ FOL+/−ボタンで曲の入っているフォルダーを選択することができます。
- \blacksquare 停止ボタンで再生を停止させると、次に \blacktriangleright 再生/一時停止ボタンを押したとき、最初の曲から再生が始まります。
- INFO ボタンを押すたびに、MP3/WMAファイルのタグ情報(曲名・アーティスト名・アルバム名)が表示され、切り替わります(日本語などは表示されません)。



ファイルに適切な拡張子(MP3は[.mp3]、WMAは[.wma])を付ける。拡張子が付いていないと、音楽ファイルを認識しません。また、実際のファイル形式と違う拡張子が付いていると、異音を発生する恐れがあります。



USBメモリーのMP3/WMAを聴く

本機では、USBメモリーに記録されたMP3/WMAファイルを再生することができます。





音楽CDの再生方法と同じ操作をします。

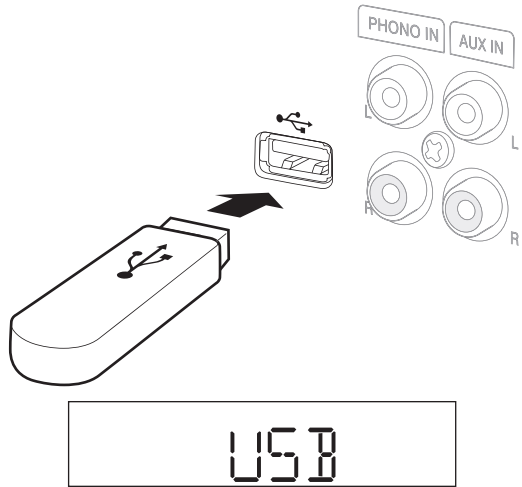
1. USB端子にUSBメモリーを接続する
2. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの  USBボタンでUSBモードに切り替える

ディスプレイ部に「USB」が表示されます。

3. 自動で再生が開始されるため、再生する曲を操作する

リモコンの操作ボタンを使用して、CD同様の操作をすることができます。

- リモコンの  FOL+/- ボタンで曲の入っているフォルダーを選択することができます。
-  停止ボタンで再生を停止させると、次に  再生 / 一時停止ボタンを押したとき、最初の曲から再生が始まります。
-  INFOボタンを押すたびに、MP3/WMAファイルのタグ情報(曲名・アーティスト名・アルバム名)が表示され、切り替わります(日本語などは表示されません)。



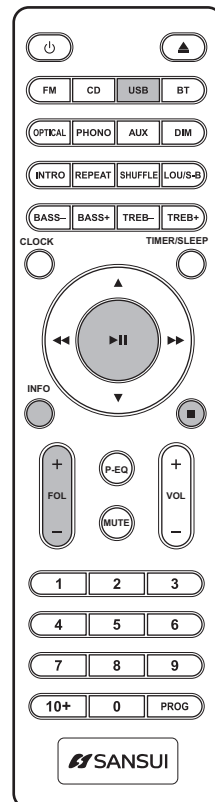
本機のUSB端子でスマートフォンや携帯電話の充電をすることができます

出力：DC 5V / 1A

充電をする場合は、充電される機器の電圧／電流に適しているかご確認の上、ご使用ください。

⚠ 注意

- ファイルに適切な拡張子 (MP3は [.mp3]、WMAは [.wma]) を付ける。拡張子が付いていないと、音楽ファイルを認識しません。また、実際のファイル形式と違う拡張子が付いていると、異音を発生する恐れがあります。
- USBメモリーの抜き差しをするときには、(金属にさわるなどして) 体の静電気をなくしておく。
空気が乾燥して静電気が起こりやすい環境のとき、USBメモリーを扱うと、データを破壊してしまうことがあります。



正しい使いかた（つづき）

Bluetooth® 機器を聴く

Bluetooth 機器の設定

- Bluetooth デバイスの接続設定をすることを「ペアリング」といいます。
 - ペアリングするときは、両方の機器を 1m 以内に置いてペアリング設定をしてください。
 - 本機は一度に 1 台の Bluetooth 機器しか接続できません。
- 本機は以下の手順で Bluetooth 機器と接続（ペアリング接続）することができます。

Bluetooth 機器との初めての接続

1. ペアリングしたいBluetooth機器の電源を入れる

Bluetooth 接続モードにしておきます。

2. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンのBTボタンでBluetoothモードに切り替える

ディスプレイ部に「BT」と表示され、右端の「BT」が点滅します（点滅は未接続を示しています）。



3. 接続するBluetooth機器のサーチ機能を利用して、本機の製品名「SMC-500BT」を検索する

検索が完了すると、接続する外部機器のディスプレイ部に「SMC-500BT」が表示されますので、それを選択し「ペアリング」を開始します。

※ペアリング接続・設定方法は、お使いのBluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

※PIN コードを要求された場合は、4桁の数字「0000」を入力してください。

4. 接続が成功すると、ピピッと音がして「BT」の点滅が点灯に切り替わる

5. 接続がうまくいかないときは、本体またはリモコンの再生/一時停止ボタン（ペアリングボタン）を長押しする

「BT」が点滅します。もう一度最初から接続しなおしてください。



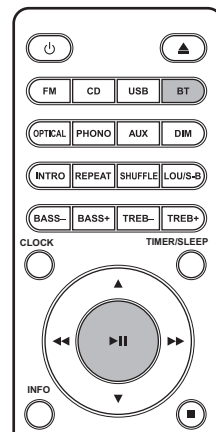
注意

本機は SCMS-T に対応していません。接続する Bluetooth 対応機器が SCMS-T 対応のときは、ご使用になれないことがあります。詳しくは Bluetooth 対応機器の取扱説明書をご確認ください。

Bluetooth 機器との 2 回目以降の接続

ペアリングをした Bluetooth 機器は、自動的に接続されます。再接続されないときは、「Bluetooth 機器との初めての接続」の手順に従って再度接続してください。

※接続する Bluetooth 機器によっては、自動的に接続されないことがありますが、本機の故障ではありません。



Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

1. 「Bluetooth機器との初めての接続」の設定・ペアリングを行なっておく
2. 本機とBluetooth機器が接続していることを確かめる

※ Bluetooth 機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。

3. 本機に接続したBluetooth機器で再生を始める

本機のリモコンまたは本体の操作部で Bluetooth 機器のコントロールができます。

※ 接続した Bluetooth 機器の音声出力レベルにも注意してください。出力レベルが小さい場合は正しく再生されないことがあります。


別の Bluetooth 機器との接続

別の Bluetooth 機器を本機に接続したいときは、現在接続されている機器の接続を切断してください。本機は一度に 1 台の機器しか接続できません。

1. 接続していた外部機器のBluetooth機能をオフにする





・外部機器に表示されている、本機の製品名「SMC-500BT」の接続を解除します。

2. 別の外部機器と「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう

3. 接続できないときは、リモコンの  再生/一時停止ボタン（ペアリングボタン）を長押しして、再度「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう

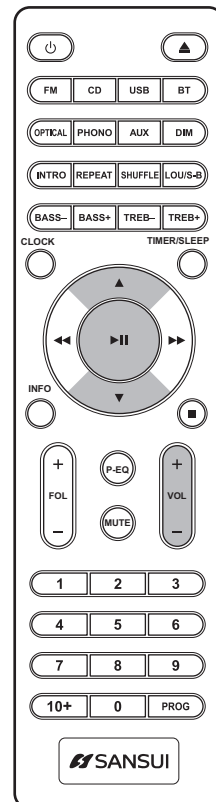
※ Bluetooth 機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。

本機のリモコンで操作できるBluetooth機器の機能

-  再生/一時停止
-  スキップ-
-  スキップ+
-  音量

このコントロールする機能は、Bluetooth の AVRCP プロファイル対応機器との接続時のみ機能します。

※ AVRCP プロファイル対応機器でもこのコントロールに対応しない機器や、対応するコントロールであっても、コマンドを送信する方法によって正常に機能しない機器があります。



正しい使いかた (つづき)

FM ラジオを聴く

FM ラジオを聴く

本機はFM ラジオ放送を聴くことができます。本体裏面にあるロッドアンテナを伸ばしてください。76～108MHzの受信ができ、FM 補完放送(ワイドFM)に対応しています。

受信状態が悪いときは、FM ロッドアンテナの向きなどを調節してください。

1. 本体のSOURCEつまみ、またはリモコンの  FM ボタンでFMモードに切り替える

ディスプレイ部に「TUNER」が表示されます。



TUNER


2. 《自動プリセット》リモコンの  PROG ボタンを長押しする

ディスプレイ部に「AUTO」と表示され、自動プリセットが開始します。



AUTO

自動プリセットが終了すると、プリセット番号 01 の放送局が選局されます。

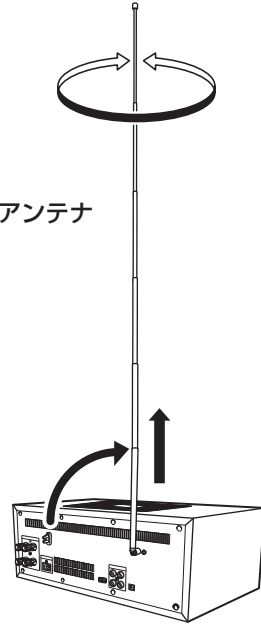


01 79.50 [∞] 《例》

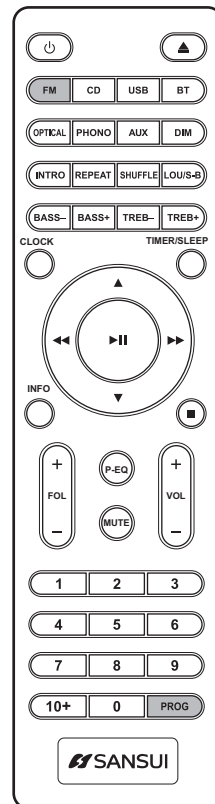
自動プリセットをするときの注意




- プリセットする前に、窓際などの電波状態の良いところへ移動させてよりよい受信状態できるようにしてください。
- プリセットするのは日曜深夜などは避けるようにします。放送されていない局があり、本来受信できるはずの局を受信できないことがあります。
- プリセット中は、他の操作はできません。プリセット終了まで操作するのはお待ちください。

FM ロッドアンテナ







※上記のイラストでは、FMロッドアンテナをわかりやすくするために実際の各種接続などを省略しています。



3. プリセットされた局を聴くときは、リモコンの   スキップ+/- ボタンまたは  数字ボタンでプリセット局を選局する





4. 自動選局または手動選局で聴きたい放送局を受信する

《自動選局》

本体の   スキップ+/- ボタンまたは、リモコンの   早戻し / 早送りボタンを長押しする。

- 自動選局が始まったら指を離してください。
- 放送局を受信すると自動的に止まります。

《手動選局》

本体の   スキップ+/- ボタンまたは、リモコンの   早戻し / 早送りボタンを短く押す。




- ボタンを押すたびに 0.1MHz 周波数が変わります。

※ 電波が弱く、自動選局が自動で止まらないときは手動選局を行なってください。

5. 《手動プリセット》プリセットしたい放送局を選局したあと、リモコンの  PROG ボタンを押す



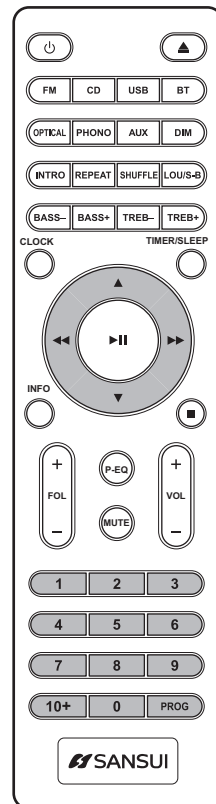
ディスプレイ部でプリセット番号が点滅します。

6. プリセット番号点滅中にリモコンの   スキップ+/- ボタンを使ってプリセット番号を指定し、  PROG ボタンを押す

指定したプリセット番号に放送局が登録されます。

※ 既に登録されているプリセット番号を指定したときは上書きされて新しく設定した放送局になります。

プリセットは最大 20 局まで可能です。



正しい使いかた（つづき）

FM ラジオを聴く（つづき）

ステレオ・モノラル受信切り替え

FM ステレオ放送が聴き取りにくいとき、モノラル受信に切り替えると聴き取りやすくなる場合があります。

1. リモコンの **REPEAT** ボタンを押してステレオからモノラルに切り替える

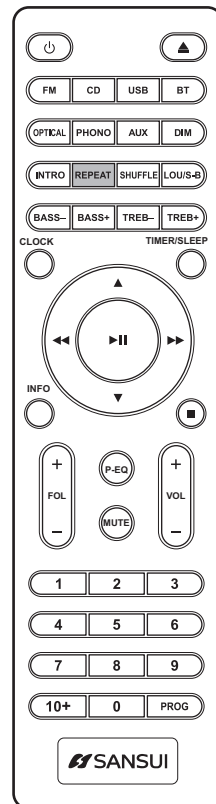
「MONO」と表示したあと、通常の表示に戻ります。



2. リモコンの **REPEAT** ボタンを押してモノラルからステレオに切り替える

「STEREO」と表示したあと、通常の表示に戻ります。

ステレオ放送を受信中はディスプレイの右上に「∞」が表示されます。



外部入力を聴く

デジタルオーディオプレーヤーなどの外部機器を外部入力端子に接続し、本機のスピーカーから音声を出力することができます。

本機には AUX (アナログ入力) と PHONO (フォノ入力) OPTICAL (光デジタル入力) の3つの外部入力端子があります。

- 本体裏面の AUX 外部入力端子 (RCA ピンプラグ)
- 本体裏面の PHONO 入力端子 (RCA ピンプラグ)
- 本体裏面の OPTICAL 端子 (光角型プラグ)

AUX外部入力端子を使用する

1. 本体裏面のAUX外部入力端子に外部機器を接続する

- 接続コードは付属されていません。接続する外部機器に合った市販品をご使用ください。
- 本機の AUX 外部入力端子は RCA ピンプラグです。

2. 本体のSOURCEつまみ、リモコンの **AUX** ボタンでAUX外部入力モードに切り替える

3. 外部機器を再生状態にする

- * 外部機器の音声出力レベルを適正に調整してください。

出力が小さい場合、本機のオートパワーオフ機能が働く場合があります。

4. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの **(+VOL-)** 音量+/- ボタンで音量を調節する



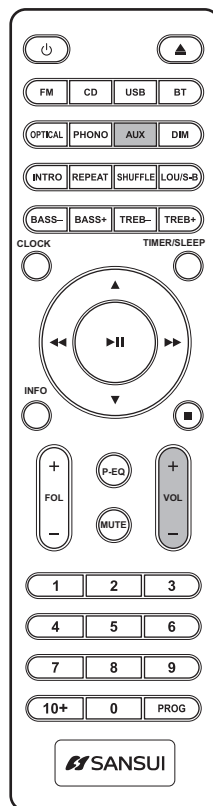
外部機器の接続・取りはずしのときは必ず音量を最小にする。
リモコンの **(MUTE)** MUTE ボタンは使用しないでください。

AUX



外部機器の音量を調節できる機器では、適切な音量に設定の上使用する。

他のモードの音とさほど変化のない音量に設定してください。大きく違った音量に設定されていると、モードを変更するたびに音量を設定しなおす必要があります。





正しい使いかた (つづき)

外部入力を聴く (つづき)

PHONO 入力端子を使用する

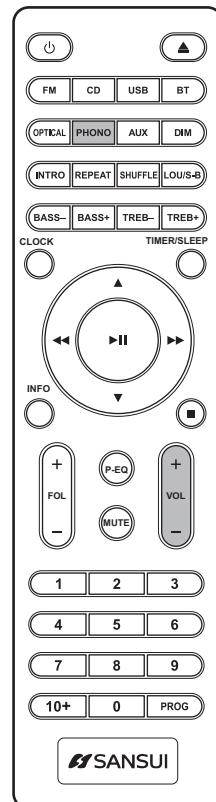
アナログレコードプレーヤー専用端子です。アナログレコードプレーヤーの出力端子と接続します。

1. 本体裏面のPHONO入力端子にアナログレコードプレーヤーを接続する
 - 接続コードは付属されていません。接続するアナログレコードプレーヤーに合った市販品をご使用ください。
 - 本機の PHONO 入力端子は RCA ピンプラグです。
2. 本体のSOURCEつまみ、リモコンの  PHONO ボタンでフォノモードに切り替える
3. アナログレコードプレーヤーを再生状態にする
4. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの  音量 +/- ボタンで音量を調節する



注意

- 本機のPHONO入力端子にはフォノイコライザーアンプが搭載されています。レコードプレーヤーにフォノイコライザーが搭載されている場合は、フォノイコライザーをオフにするか、AUX 外部入力端子に接続してください。
- 本機のPHONO入力端子はMMカートリッジ専用端子です。MCカートリッジを使用する場合は、別途 MC 昇圧トランスまたはヘッドアンプを介して PHONO 入力端子に接続する必要があります。
- 別途、MC 用フォノイコライザーアンプを使用した場合は本機の AUX 外部入力端子に接続してください。
- 間違った接続をすると、正しく再生できないばかりか本機の故障の原因になりますので、くれぐれもご注意ください。



OPTICAL光デジタル入力端子を使用する

本機のデジタル入力は光デジタル入力となります。

- 本機に入力できるのは32kHz、44.1kHz、48kHzのリニアPCM信号です。



光デジタル入力端子 (OPTICAL) にリニア PCM 信号以外は入力しない。
リニアPCM信号以外のドルビーデジタル、DTS、AACなどを入力すると雑音が発生し、スピーカーの破損などの原因になります。

1. 本体裏面のOPTICAL光デジタル入力端子に外部機器を接続する

- 接続コードは付属されていません。外部機器との接続は市販品の光デジタルケーブルをご使用ください。
- 本機に接続できるのは光角型プラグ (S/PDIF) です。

2. 本体のSOURCEつまみ、リモコンのOPTICALボタンで光デジタル入力モードに切り替える

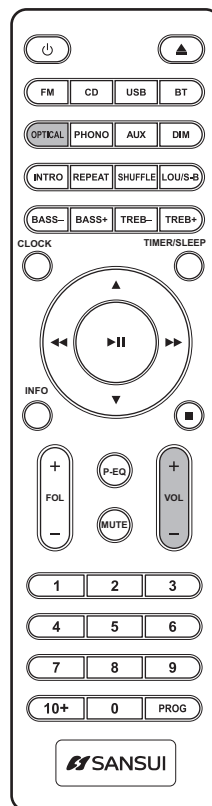
3. 外部機器(光デジタル機器)を再生状態にする

- * 外部機器の音声出力レベルを適正に調整してください。

出力が小さい場合、本機のオートパワーオフ機能が働く場合があります。

4. 本体のVOLUMEつまみ、またはリモコンの(+VOL-)音量+/-ボタンで音量を調節する

OPTICAL




便利な使いかた

本機は、内蔵時計を利用して便利に使うことができます。

スリープタイマーを使う

設定した時間後に電源を切る（スタンバイ状態）ことができます。

1. 電源オン時にリモコンの TIMER/SLEEP ボタンを押してスリープタイマーを設定する

ディスプレイ部に「SLEEP 00」が表示され、 TIMER/SLEEP ボタンを押すたびに「SLEEP」の右側が 00 → 120 → 90 → 60 → 30 → 15 → 00（単位は分）と切り替わります。

スリープタイマーが設定されると、ディスプレイの左上に「Z²」と表示されます。

設定した時間後に電源が切れます。

2. 再度設定するときや、キャンセルするときには、リモコンの TIMER/SLEEP ボタンを押して「SLEEP」の右側の数値を変更する


 TIMER/SLEEP ボタンを押して、数値を設定しなおします。

- ・スリープタイマーをキャンセルするときには、00 に設定します。

オンタイマーを使う

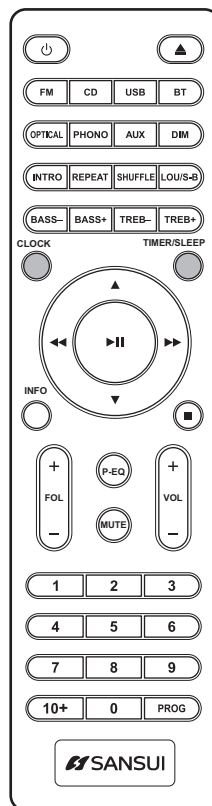
設定した時間に自動で電源を入れて、設定したモード（FM（TUNER）/CD（DISC）/USB）の音を、設定した音量で再生することができます。

- ・ディスプレイ部に何も表示されていないエコパワースタンバイ状態のままでは、オンタイマーは設定できません。


リモコンの、 CLOCK ボタンを押して、ディスプレイ部に時計表示をさせて、オンタイマー設定をしてください。

オンタイマーを使う前に…

- ・現在時刻を合わせてください（⇒ 10 ページ）。
- ・再生する音源（FM ラジオ、CD、USB メモリー）を準備してください。



オンタイマーの設定

1. 通常のスタンバイ状態でリモコンの
 TIMER/SLEEP ボタンを長押ししてオンタイマーを設定する

「ALM SET」と表示されます。



2. リモコンの   スキップ+/- ボタンで、再生するモードを選び  TIMER/SLEEP ボタンを押す

BT、AUX、PHONO、OPTICAL は設定できません。



TUNER (FM) に設定したとき

最後に選局した FM 局の音声が流れます。

DISC (CD) に設定したとき

CD の曲がレジューム再生（前回停止位置からの再生機能）されます。MP3/WMA が記録された CD でも同様です。

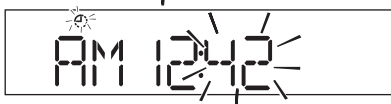
※ CD が再生できない場合は FM の音声が流れます。

USB に設定したとき


CD 同様 USB メモリーの曲がレジューム再生されます。

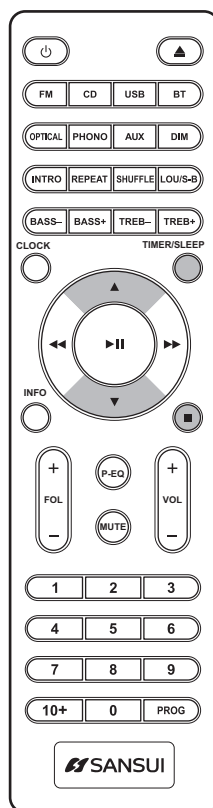
※ USB が再生できない場合は FM の音声が流れます。

3. リモコンの   スキップ+/- ボタンでオンタイマーの「時」「分」を設定して  TIMER/SLEEP ボタンを押す



- 「時」を設定後、 TIMER/SLEEP ボタンを押すと「分」を設定することができます。
- 「分」を設定後、 TIMER/SLEEP ボタンを押すと「音量」を設定することができます。

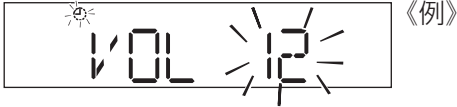
※ 設定をやめるときは  停止ボタンを押す、または 30 秒以上そのままにしておきます。29




便利な使いかた (つづき)

4. リモコンの スキップ+/- ボタンで再生したい音量を設定して、 TIMER/SLEEP ボタンを押す

- ・オンタイマーが実行されたとき音量は設定した音量まで徐々に大きくなります。



- ・ TIMER/SLEEP ボタンを押して、ディスプレイ部に現在時刻が表示されたら、設定完了です。

※オンタイマーを設定すると、毎日同じ内容で動作します。

⚠注意


- ・オンタイマーの音量調節は、慎重に行なう。
- ・設定する再生するモードに気を付ける。

オンタイマーの入切

1. オンタイマーを入にするには、通常のスタンバイ状態でリモコンの TIMER/SLEEP ボタンを押してディスプレイ左上のタイマーランプを点灯させる



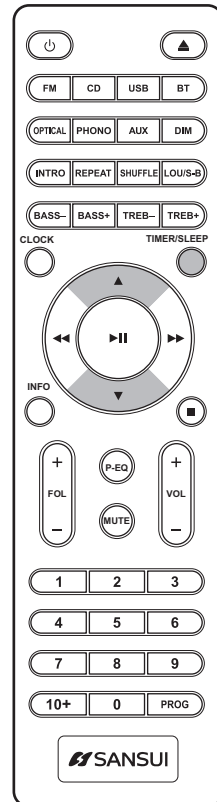
タイマーランプ点灯

 TIMER/SLEEP ボタンを押すたびにオンタイマーを入・切することができます。

2. オンタイマーを切にするには、通常のスタンバイ状態でリモコンの TIMER/SLEEP ボタンを押してディスプレイ左上のタイマーランプを消灯させる



タイマーランプ消灯



お手入れのしかた



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
感電・火災・けがの原因になります。



- ベンジン・シンナーでは拭かない。
変色や変形の原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。
変色・キズの原因になります。
- 本体に水をかけたりしない
感電・故障の原因になります。

本体のお手入れ

本体の汚れは、柔らかい布で軽く乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水を含ませた布をよく絞り、拭き取ったあとは乾拭きしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。)

CDのお手入れ

CDにホコリや指紋、皮脂汚れなどがあると正しく再生されません。

柔らかい布での乾拭きや市販のCDクリーナーなどでクリーニングしてから再生するようにしてください。

※放射状に拭くようにしてください。

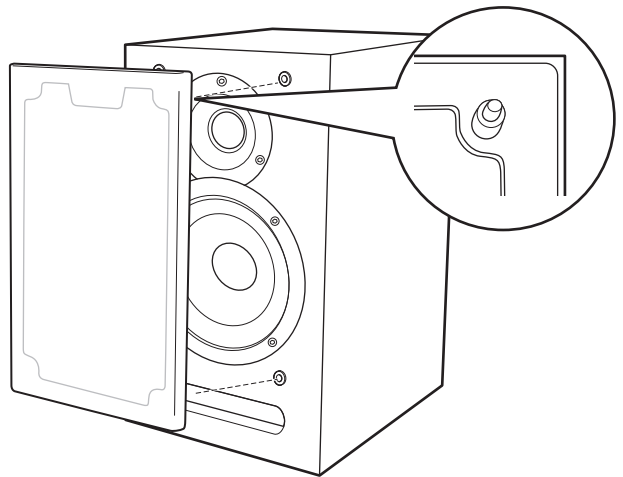
※市販のCDクリーナーの取扱説明書を必ずご確認ください。

※CDについて詳しくは「CDについて」(→5ページ)もお読みください。

スピーカーのお手入れ

スピーカーの汚れは、カメラのレンズ清掃用のブロワーブラシなどを使い、軽くブラシ部分でホコリをはらってください。


※本機のスピーカーの前面(サランネット)は、取りはずすことができます。



修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解や修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

| 症状 | 主な原因 | 処置 |
|-----------------------------|--|--|
| 共通部 | | |
| 電源が入らない | <ul style="list-style-type: none"> 電源コードがはずれている | 電源コードを本体の電源端子に、電源プラグをコンセントにきちんと接続する |
| 音が出ない | <ul style="list-style-type: none"> 消音状態になっている | リモコンの  MUTE ボタンで消音を解除する |
| | <ul style="list-style-type: none"> 入力切替が目的のモードに設定されていない | 本体の SOURCE つまみまたはリモコンボタンで目的のモードに切り替える |
| | <ul style="list-style-type: none"> スピーカーケーブルが正しく接続されていない | 正しく接続する（スピーカーケーブルの芯線（導線）部分と被膜部分に注意する） |
| | <ul style="list-style-type: none"> ヘッドホン端子にヘッドホンが接続されている | ヘッドホンを取りはずす |
| ヘッドホン端子にヘッドホンを接続しても正しく聴こえない | <ul style="list-style-type: none"> ヘッドホンのミニプラグが奥まで差し込まれていない | ミニプラグを奥まできちんと差し込む |
| | <ul style="list-style-type: none"> 4 極以上のミニプラグのヘッドホンを使用している（4 極以上のミニプラグは正しく使用できないことがあります） | 3 極のステレオミニプラグヘッドホンを使用してみる、または変換プラグなど使用してみる |
| 雑音が入る | <ul style="list-style-type: none"> 近くで電波など発する機器（携帯電話など）を使用している | 電波など発する機器から離す、もしくは電波など発する機器を離す |
| 電源が自動でオフになる | <ul style="list-style-type: none"> オートパワーオフ機能 | 本機では再生が停止または一時停止された状態で 15 分以上操作しないと電源が自動でオフになります（➡ 10 ページ） |
| 正常な動作をしない | | 一度電源プラグを抜いて接続しなおす |
| リモコンで操作できない | <ul style="list-style-type: none"> 電池が消耗している | 新しい電池に交換する |
| | <ul style="list-style-type: none"> 操作する距離が遠い | リモコン使用可能範囲はリモコン受光部から約 6m です |

| 症状 | 主な原因 | 処置 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| CD 部 | | |
| 再生が始まらない | • CD トレイが閉じられていない | CD トレイを閉じる |
| | • CD が裏返しにセットされている | ラベル面を上にしてセットする |
| | • CD の汚れがひどい | クリーニングをする |
| | • CD-R/RW がファイナライズされていない | ファイナライズされた CD を使用する ^{※1} |
| | • CD が著作権保護技術でエンコードされている | ディスクによっては再生できない |
| | • 再生できないディスクを入れている | 「UNK DISC」表示が出るディスクは再生できない |
| | • 結露状態になっている | 露のつかない場所に移動し、結露を乾燥させる |
| 音がとぶ | • 振動がある | 振動のない場所に置く |
| | • CD に大きなキズがある | CD を修復する |
| MP3/WMA を読み取らない | • フォーマットが違う | ISO9660 でフォーマットして書き込む |
| | • 書き込んだセッションが違う | MP3/WMA の CD は 1 度にすべてを書き込む (マルチセッションに対応しません) |
| | • 拡張子 「.mp3」 「.wma」 が付いていない | 拡張子 「.mp3」 「.wma」 を付ける ^{※2} |
| USB 部 | | |
| USB メモリーを認識しない | • フォーマットが違う (NTFS・HFS など) | 「NO SUPPT」と表示される USB メモリーは FAT32 でフォーマットし直して書き込む |
| | • USB ハブなど介して接続している | 本体に直接接続する |
| | • HDD を接続している | USB メモリーを使用してください |
| MP3/WMA を読み取らない | • フォーマットが違う (NTFS・HFS など) | FAT32 でフォーマットして書き込む |
| | • 拡張子 「.mp3」 「.wma」 が付いていない | 拡張子 「.mp3」 「.wma」 を付ける ^{※2} |
| FM ラジオ部 | | |
| 雑音が入る | • テレビなどが近くにある | テレビなどから離す |
| | • 電波状態が悪い | 窓際などで試してみる |
| | • FM ロッドアンテナを伸ばしていない | FM ロッドアンテナを伸ばし方向を変えてみる |

※1 ファイナライズの方法については、ご使用の録音機器の取扱説明書をご覧ください(本機ではファイナライズできません)。

※2 音楽ファイルを認識しなかったときは、「NO SONG」と表示されます。

修理・サービスを依頼する前に（つづき）

| 症状 | 主な原因 | 処置 |
|----------------------------|--|--|
| 外部入力部 | | |
| レコードの音が小さい | <ul style="list-style-type: none"> AUX 外部入力端子に PHONO イコライザーの付いていないレコードプレーヤーを接続している PHONO 入力端子に MC カートリッジを使用しているレコードプレーヤーを接続している 接続している機器の音量が小さい | <p>PHONO 入力端子に接続する（本機の PHONO 入力端子は MM カートリッジ専用です）</p> <p>フォノアンプを介して AUX 外部入力端子に接続する</p> <p>昇圧トランスもしくはヘッドアンプを介して PHONO 入力端子に接続する</p> <p>接続している機器の音量を上げる</p> |
| 音がひずむ | <ul style="list-style-type: none"> PHONO 入力端子にレコードプレーヤー以外の機器、またはフォノイコライザーの付いているレコードプレーヤーを接続している | AUX 外部入力端子に接続する |
| 光デジタル入力で雑音が聴こえる | <ul style="list-style-type: none"> リニア PCM 信号以外のドルビーデジタル、DTS、AAC などを入力している | 入力するのはリニア PCM 信号にする |
| 光デジタル入力で音がしない、または大音量ノイズがする | <ul style="list-style-type: none"> 本機で対応していないサンプリング周波数の信号を入力している | 対応している周波数の信号を入力する（➡ 27 ページ） |
| Bluetooth 部 | | |
| 音が出ない | <ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器との距離が遠い 無線 LAN や電子レンジ、無線機器などの影響を受けている 正しくペアリングされていない SCMS-T の送信 | <p>Bluetooth 機器と本機を 10m 以内に近づける</p> <p>影響しそうな機器の使用をやめてみる</p> <p>もう一度ペアリングしてみる</p> <p>本機は SCMS-T に対応していません</p> |
| 映像機器とつなぐと、映像より音が遅れる | <ul style="list-style-type: none"> Bluetooth の通信遅延 | 状態によって Bluetooth では若干遅れることがあり、映像と音声を一致させるには外部入力端子に音声を接続する |
| ペアリングできない | <ul style="list-style-type: none"> Bluetooth 機器との距離が遠い Bluetooth 機器側の問題 先に別の Bluetooth 機器が接続されている | <p>Bluetooth 機器と本機を 1m 以内に近づけてペアリングする</p> <p>電源など十分に確保してから試してみる</p> <p>外部機器の取扱説明書を確認する</p> <p>別の Bluetooth 機器が接続されていないか確認する</p> |

主な仕様

仕 様

アンプ部

| | |
|-------------------|-----------|
| 定格出力 (RMS・THD10%) | 75W + 75W |
|-------------------|-----------|

CD部

| | |
|------------|---------------|
| 再生可能ディスク | CD、CD-R、CD-RW |
| 再生可能フォーマット | CD-DA、MP3、WMA |

USB部

| | |
|--------------|-----------------------------------|
| バージョン (端子) | USB2.0 マスストレージクラス (タイプ A) |
| 使用可能容量 | 32GB 以下 |
| ファイルシステム | FAT32 |
| 電源出力 | DC5V / 1.0A |
| 再生可能フォーマット | MP3、WMA (拡張子 .mp3、.MP3、.wma、.WMA) |
| 最大読み込みファイル数 | 999 |
| 最大読み込みフォルダー数 | 99 |

チューナー (FM ラジオ) 部

| | |
|----------|------------------------|
| 形式 | PLL オートスキャン |
| 受信バンド | FM |
| FM 受信周波数 | 76 ~ 108MHz (ステレオ放送対応) |

スピーカー部

| | |
|---------|----------------------------|
| タイプ | 2WAY バスレフタイプ |
| ドライバー | 13cmウーファー、3.8cmシルクドームツイーター |
| コーン紙 | 和紙素材 W-RPM (ウーファー) |
| インピーダンス | 4 Ω |
| 最大許容入力 | 80W ※内径 4mm のバナナプラグ対応 |

Bluetooth 部

| | |
|--------|---------------|
| バージョン | Ver.2.1 + EDR |
| プロファイル | A2DP、AVRCP |
| コーデック | SBC |
| SCMS-T | 非対応 |

基本仕様

| | |
|--------|---|
| 外部入力端子 | 3 系統 (AUX × 1 / PHONO × 1 / OPTICAL 光デジタル入力 × 1) |
| 出力端子 | 3.5mm ステレオヘッドホン端子 |
| 外形寸法 | 本体 (突起物含む) (約) W350 × D235 × H138mm スピーカー (1 本) (約) W180 × D250 × H318mm |
| 質量 | 本体 (約) 5.2kg (本体のみ) / スピーカー (1 本) (約) 4.5kg |
| 電源 | AC100V 50/60Hz |
| 消費電力 | 動作時 50W (エコパワースタンバイ時 0.8W) |

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

長年ご使用のCDステレオシステムはよく点検を

このような症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- こげ臭い匂いがする。
- その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシヤカスタマーセンターに点検をご相談ください。

株式会社ドウシシャ

〈東京本社〉〒108-8573 東京都港区高輪2-21-46

〈大阪本社〉〒542-8525 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-5-5

■故障・修理についてのご相談に関しては…

⇒ドウシシャ福井家電 カスタマーセンター 【受付時間】9: 00～ 17: 00(土日祝以外の月～金曜日)

〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

TEL 0778 (24) 2779 FAX 0778 (24) 2799

※ 製品名、品番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願い致します。

※ FAXもしくは、お電話をいただいた際にお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。